

しいの実

鈴鹿市立鈴西小学校

目指す学校像「夢と笑顔と緑がいっぱいの学校」

■ 避難訓練で、大地震と火災に備えました！

6月29日(月)の2限目に、全校で大地震とその後の給食調理室からの出火を想定した避難訓練を行いました。不協和音とともに始まる「緊急地震速報」の放送が流れ、一次避難！すぐに机に潜ったりダンゴムシのポーズをとりました。落下物や転倒物から自分の頭と体を守ります。教室以外の場所では、物が落下したり転倒したりする所から離れることで、自分の身を守ります。大きな揺れがおさまったら、二次避難！しゃべらず、あわてずに、さらに3密を避けながら、運動場の中央に避難することができました。

南海トラフ地震については今後30年以内に起きる確率が「80%程度」と、非常に高い確率が言われているからこそ、地震が近づいていることを決して忘れずに、しっかりと備えを進めていきたいと思えます。



■ 今後の主な学校行事の持ち方について

6月24日(水)に鈴鹿市立小中学校の修学旅行について末松市長から記者会見がありました。修学旅行は子どもたちの大きな楽しみであり、みんなで一つのことを体験する大切な機会を確保するとともに感染症のリスクを最小限にとどめるため、旅行先は小中学校とも三重県内とされました。また、他の学校行事についても、鈴鹿市教育委員会から次のような指針が出されていますので、お伝えします。

- 社会見学を実施する場合は、目的地を三重県内とすること。
- 自然教室・キャンプを実施する場合は、飯盒炊飯や宿泊を伴わないこと。
- 運動会は、密集・密接を避けた種目や日程、参観などの内容や方法を検討すること。
- 文化祭（森のまつり）は、3密を避けた内容や方法を検討すること。

新型コロナの感染予防対策とは言え、子どもたちが楽しみにしていた行事を上記のような条件の中で例年通りに実施できないことを大変心苦しく思っています。また、行事の詳細が決まりましたら、関係学年の保護者の皆さんに連絡させていただきます。

■ 小学校では、学習指導要領が変わります！

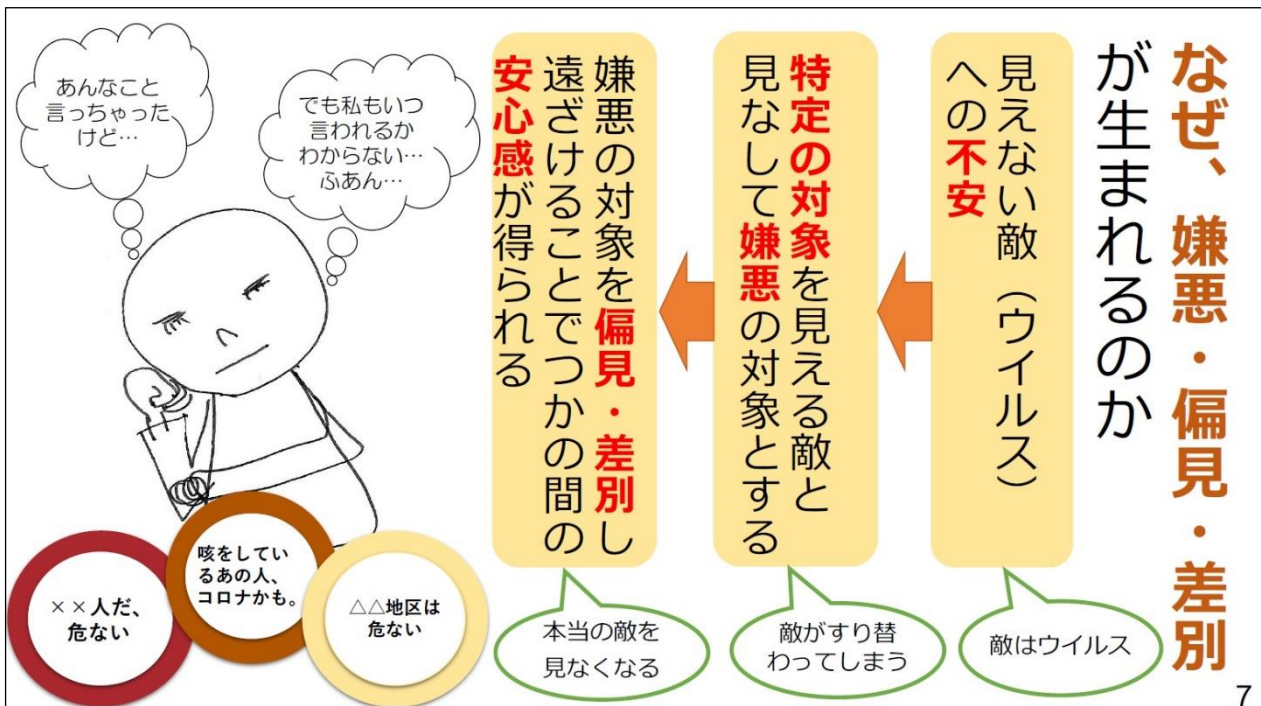
新型コロナの対応に追われ時期を逸してしまいましたが、今年度から新しい学習指導要領を基づいた教科書や時間割で授業を進めています。およそ10年に一度改定されており、今回の改定のポイントは子どもたちの学びについて次の3点を目指すことです。

- ① 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点から「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視して授業を進めていきます。
- ② 複数の教科や学年の連携を図りながら授業をつくっていくなど「カリキュラム・マネジメント」を行い、教育活動の質を向上させることで学習効果の最大化を図ります。
- ③ 社会に出てからも学校で学んだことを生かせるように、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性」の3つの力をバランスよく育みます。

■ 新型コロナ感染症から、差別が……！

世界各地で新型コロナウイルスの感染者を差別する動きが広がっていると聞きます。例えば、エジプトでは感染で亡くなった人の葬儀を周囲の村人がボイコットするような事例が起こったそうです。また、日本でも感染症の治療にあたった医師や看護師の子どもが保育園の通園自粛を求められる事例がありました。

これらの事例のように、元々は新型コロナウイルスが出発点なのに、どうして人から人への差別に変化してしまうのでしょうか。このメカニズムについて、日本赤十字社のホームページ「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」でわかりやすくまとめられています。このウイルスには『感染症』という3つの顔があり、第一の『感染症』は病気そのもの、第二の『感染症』は不安と恐れ、心理的な感染症です。そして第三の『感染症』が嫌悪・偏見・差別、社会的な感染症です。なぜ第三の『感染症』まで変化するのかは、スライドで次のように説明されています。



出典：日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」

この他、ページ全体は19枚のスライドで構成され、これら3つの『感染症』のつながりや、それぞれの『感染症』を防ぐための方法も詳しく述べられています。ぜひ一度、ご覧ください。そして、偏見や差別を解消する一歩を共に進めていきましょう。